

過剰消費慎み 自然エネルギー利用



うめはら・たけし 京大文学部哲学科卒。京都市立芸術大学長などを経て国際日本文化研究センター顧問。昨年4月に東日本大震災復興構想会議特別顧問に就いた。

—震災や原発事故で、何を考えましたか。

「文明が変わらなくてはいけないし、文明を基礎づける哲学も変わらなくてはいけない。現代の科学技術文明を基礎づけたのは17世紀のフランスの哲学、つまりデカルトですね。科学が発展すれば、人間は自然を奴隷のように支配できるという彼の哲学が人類の思想となったわけです」

「ところが今回の原発事故をみて、すぐ『文明災』という言葉が浮かんだ。地震、津波は天災。政府や東電が危険の担当をやる所かにしてきたのは人災。しかし、それだけでは尽きない。世界の文明国は多かれ少なかれエネルギーを原発に頼っている。事故は文明の災害でもある」

—大切な変わり目の機会を与えたか？

「哲学が、今や大きく揺らいでいる。文明は、それを支えるエネルギーが問題。最初は森林を伐採してエネルギーにしたのだけど、もっと効率の良い石炭

や石油が見つかった。ただ、いずれも実はかつての動植物ですね」

「ところが20世紀になって原子力が発見された。人間の力を超えたエネルギーですね。温暖化防止にも役立つ、人類の救世主のように思われたけど、結果として悪魔のエネルギーだった。一部の人は原発容認を言っているけれど、10年、20年の対策としては必要だとしても、脱原発は歴史の必然です」

—すんなりできるでしょうか。

「今、日本の原発はほとんど停止している。それでも何とかできる。電力消費を20%でも抑えれば、原発

哲学者

梅原 猛さん (86)

再考 エネルギー

朝日 12(H24).1.1

東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故を受けて国は今年、エネルギー政策を根本的に練り直す。私たちはエネルギーにどう向き合えばいいのか。各界の著名人に聞いた。

なしでいける。さらに自然エネルギーを安く手に入れることができるれば、この問題は解決する」

「政府は自然エネルギー研究に予算を出せばいいんですよ。かつて核融合研究に大変な予算を出した。それは地球に太陽をつくらんとする研究。思ひ上がりですよ。それに対して太陽の恩恵をよりうまくいただく。それが新しい科学だ。自然エネルギー利用は生活を良くするだけでなく、環境破壊を防ぎ、人類の救世主になる。それを今より安価に手に入れることができれば、国も企業も栄える」

— 文明や哲学は？

「やはり自然との共存という思想に帰らなくてはならない。人間は自然を征服できるという西洋の思想に対し、日本には、動物はもちろん植物も鉱物もみな仏だという『草木国土悉皆成仏』の思想がある。日本は国土の3分の2が森で、神社には必ず森を残した」

「一方の西洋文明にとって森は未開の象徴。そういう文明、哲学まで変わらなくては」

「若い時、来日した英国の歴史家トインビーに会った。彼は『17世紀になって、それまで最も強力だったイスラム文明に代わり、科学技術文明を生んだ西洋諸国が世界を征服した。そして日本のようにいち早く科学技術で近代化した国が栄えた。しかし21世紀には、非西洋諸国が科学技術文明を採り入れながら、自

分の伝統的原理に基づいて新しい文明をつくるであろう』と語った。で、私は『どういう原理でしょう』と聞いたら、『それはお前が考えることだ』ってしかられませんでした。それから40年考えて、今、やっと答えを出せた」

— どう変わっていくべきですか。

「やはり過剰な消費生活は慎むべきだな。自然エネルギーを利用して、『もったいない』精神で生活する。それが日本の伝統にかなう。震災で思ったのは、東北の人々が決してエゴイストではないということ。忍耐強く秩序を守る被災者に世界が驚いた。道徳精神が残っている。自然の恩恵を受け、感謝して生きる。そういう文明によって新しい日本をつくるべきです」